



八
濃美

特別
A5
6673
47
早稲田大学図書印



安永四乙未歲



祝晨

家彦よと川の田を暮あそ
茶子よなまぬねをふりて
ふゆり〜とよふ凡俗よ致ふ
氣ふぢふよ奈ほふやまよ
他活平生のゆも勝ふよまゆら
あつぢ〜と平の〜とたのまよよも
とて川正門のゆ〜とふよまゆら
あんと

陽春と仙

大娘や

本宅の燈籠も

まのまし

李希

か〜とと教り沖の意方柳 桃水
〜と〜と〜と〜と〜と〜と
柳新や〜と〜と〜と〜と〜と 相宇
柳〜と〜と〜と〜と〜と〜と 委由
万葉よ〜と〜と〜と〜と〜と 昌朝
柳〜と〜と〜と〜と〜と〜と 推
えりや〜と〜と〜と〜と〜と 楚邑
起〜と〜と〜と〜と〜と〜と 考繁
えりや〜と〜と〜と〜と〜と 凡尼
川柳や〜と〜と〜と〜と〜と 李希

おれやまの作ふあふ井の所為因
なむ初ん初ふ合ふて来凡も夢も 且吹
着水やとほも定てうふ汲ん 又知
おくよおのあノや初日乳 宇取
と幸ハ旅りの
そはさもあれハ
道遠上旅も一 せん海もふも 初夏

千
白紙

お海へおれ初幸一の梅は一 初夏
昔のさむい上虚実月丘、 西巻伝
あし〜ぬさ〜ハ何そあけよして 杜梨

門廊門外廊門桐宇
下ふとさ〜係よあれ 月朧水
さぬ〜あれハ〜と〜ん 答 奏 曲
紫の式初も〜〜〜怪り 云 石 推
い〜よ〜鐘 山 塔 の 海 宇 取
あ〜〜〜歌〜〜〜と〜〜〜よ 立 凡 尾
よもやとさふ人よ〜〜〜何〜 考 樂
と〜〜〜も〜〜〜頃むの夕まくれ 又 知
笑う差よか〜〜〜るの〜〜〜ハ 呂 朔
尾目〜〜〜よ〜〜〜ふ〜〜〜ら〜〜れ 李 帝
院正尋の山の井〜〜〜と〜〜 呂 周

地震くくあぢくくくく境石楚邑

ちんちんてんてんてんてんてんてん

畚鍤の用もあつてのうへへへへへ

活噴くふの別屋ささくれ

月靴も陀羅尼の種もはなはな

いんいんいんいんいんいんいん

うらけけけけけけけけけけけけ

水のもいよはなはなはなはな

北も南も北も北も南も北も

園多れやと八雲のふとふと

幸しく老屋のちやま

さくさくも凡雅の冥加

おのふはあひて効も効はら

おくくもあはなはなはな

あぢあぢあぢあぢあぢあぢ

あぢあぢあぢあぢあぢあぢ

み布を人

同くあぢあぢあぢ

あぢあぢあぢあぢ

さすの柄

京橋名板

